



なかよしきょうだいの みきちゃんは6さい、  
だいちくんは8さいの元気な子。  
ふたりとも大きな木の下が大好き。

ふたり 「この大きな木は、おじいさんみたい。  
森のおじいさんだから、もりじいってよぼうよ」  
って ふたりで きめたのです。

まいにち がっこうや ようちえんが 終わってから  
もりじいの ところに やってきて、うれしかったこと、悲しかったこと、  
みんな はなして あげるのです。  
ざわざわっと はっぱが ゆれたり、  
そよかぜが とおったり、まるで ふたりのはなしに  
うなずいて くれるよう。

ある日のこと、いつものように、もりじいの ところに やってくると…



みき : 「森のなかまさん。こんにちは。」

だいち : 「きょうも、木やくさ、どうぶつや とり、むしさんも <sup>げんき</sup>元氣だね。」  
ところが、もりじいはいつもより <sup>げんき</sup>元氣がなく、かなしい かお。

みき : 「どうしたの？もりじい」

もりじい : 「ちかごろ、しぜんの なかまたちに、こまったことが おきているんじゃ。」

みき : 「しぜんの なかまって？」

もりじい : 「きみたちの まわりにいる なかまたちさ。 <sup>き</sup>気づいているかなあ？」

だいち : 「へー、どんな なかまがいるんだろう？」

もりじい : 「そうだね、しょうかいしてあげよう」

もりじいの <sup>ふと</sup>太い枝が <sup>えだ</sup>ふたりを のせて…。

ビューン

あっという まに <sup>き</sup>木のてっぺんへ！

もりじい : 「おーい、<sup>くも</sup>雲くん。ふたりに <sup>そら</sup>空のせかいをあんないしてくれないか？」

<sup>くも</sup>雲さん : 「まかせてくれよ、もりじい」



雲さん：「ようこそ、空の国へ」  
水玉さん：「こんにちは。わたしは川や海から上がってきた、水玉というの。  
よろしくね」

みき：「こんにちは、雲さん、水玉さん」

雲さん：「わたしたち雲はね、水玉たちがあつまってできているんだ」

だいち：「ええっ！雲は、水玉さんからできているの？」

雲さん：「そう。もっと大きくなると、雨をふらせることもできるんだぞ」

みき：「そうなの？雨は、雲からふってくるの？！」

そこへ…

シーオーツー：「じゃまだ じゃまだ じゃまだ——！」

と空のむこうのくろいかたまりから  
へんな声がきこえてきたかとおもうと、  
みきたちのちかくへとんできました。



みき：「あなたたちはだーれ？」

シーオーツー：「わはは、おれたちはシーオーツー。たくさん<sup>う</sup>生まれたあと、空<sup>そら</sup>をウロウロしているのさ」

みき：「あなたたちは、どこからやってきたの？」

シーオーツー：「ぼくは、こうじょうの えんとつ」

シーオーツー：「わたしは、ゴミを もやすところ」

シーオーツー：「ぼくは、くるまの はいきガス」

シーオーツー：「でんきをつかう、クーラーやれいぞうこ、テレビをみるときに<sup>う</sup>生まれるなかまも いるんだ」

とシーオーツーたちはいいました。

みずたま 水玉さん：「あなたたち シーオーツーの なかまが、空<sup>そら</sup>にたくさんやってきたおかげで、

<sup>こま</sup>困ったことが おきているのよ！」 <sup>みずたま</sup>水玉は おこっていいました。

みき：「どんなことなの？おしえて」

みずたま 水玉さん：「雨<sup>あめ</sup>の日が つづいたり、ぜんぜん 雨<sup>あめ</sup>がふらなくて、あつい日<sup>ひ</sup>が つづいたり…」

だいち：「そういえば、むかしより へんなお天気<sup>てんき</sup>がおおくなっただけきたことがあるぞ」

だいち：「よし、みき、シーオーツーたちを やっつけよう！」

だいち はりきって とび出<sup>だ</sup>そうとします。



もりじい：「シーオーツーは、ほんとうはわるいやつじゃないんだよ。  
わたしたち、森の木は、シーオーツーをいい空気に  
かえることができるんだ。  
でも、もうわたしたちではシーオーツーをすいこみきれなく  
なってしまったんだ。それはどうしてだとおもう？」  
ともりじいがかな悲しい声でこえたずねます。

だいち：「シーオーツーをすいこむ森の木がへっているから…」  
みき：「シーオーツーがたくさんうま生まれているから…」

くも雲も みずたま水玉も みんな な泣いています。

だいち：「そうか！シーオーツーをへらせばいいんだよ。  
でもどうしたら、シーオーツーがへらせるんだろう……………」  
だいちとみきは、とほうにくれました。



もりじい：「こんどは、<sup>つち</sup>土の中にある <sup>なか</sup>なかまの ところへ あんないしよう。

きっと、なにか いいかんがえが みつかるかもしれない。

さあ、こっちにおいで」

もりじいは、じぶんの <sup>おお</sup>大きな あなに、ふたりをはこび、

シュルルル、シュルルル…。

ふたりは、<sup>した</sup>どんどん <sup>した</sup>どんどん、下へ、下へ！

あっ というまに じめんの なか。

みき：「わあ！ きれい」

そこには、すきとおった <sup>みず</sup>きれいな水が、あちこちから わき、

そして ながれていました。



- みき : 「こんにちは。きれいな <sup>みず</sup>お水さん」
- <sup>せいりゅう</sup>清流さん : 「こんにちは。わたしは、<sup>つち</sup>土のしたを <sup>せいりゅう</sup>ながれる 清流よ」
- だいち : 「こんなところにすきとおった <sup>みず</sup>水が <sup>せいりゅう</sup>ながれている なんて、おどろきたなあ」
- みき : 「<sup>せいりゅう</sup>清流さんは、どこから生まれたの？」
- <sup>せいりゅう</sup>清流さん : 「<sup>あめ</sup>雨が <sup>せいりゅう</sup>じめんにしみこんで、<sup>せいりゅう</sup>しずくが <sup>せいりゅう</sup>あつまって、<sup>せいりゅう</sup>ながれになるのよ。  
木の<sup>き</sup>ねっこが <sup>せいりゅう</sup>わたしたちを <sup>せいりゅう</sup>育ててくれるのよ」
- だいち : 「へえ、もりじいたちの <sup>せいりゅう</sup>おかげ なんだ」
- <sup>せいりゅう</sup>清流さん : 「わたしたち <sup>せいりゅう</sup>清流は、<sup>せいりゅう</sup>たくさんの <sup>せいりゅう</sup>なかが <sup>せいりゅう</sup>あつまると、  
この <sup>かわ</sup>くらいと <sup>うみ</sup>ころから、<sup>せいりゅう</sup>川や海へと <sup>せいりゅう</sup>ながれ <sup>せいりゅう</sup>出して <sup>せいりゅう</sup>いくのよ」
- <sup>せいりゅう</sup>清流さん : 「でもね、…」<sup>せいりゅう</sup>清流の <sup>せいりゅう</sup>めには <sup>せいりゅう</sup>なみだが <sup>せいりゅう</sup>あふれて <sup>せいりゅう</sup>いました。
- みき : 「<sup>せいりゅう</sup>どうしたの？ <sup>せいりゅう</sup>清流さん？」
- <sup>せいりゅう</sup>清流さん : 「<sup>せいりゅう</sup>シクシク、シクシク… <sup>みず</sup>水のおともだちが <sup>せいりゅう</sup>だんだん <sup>せいりゅう</sup>いなくなっているの」



みき せいりゅう : 「清流さんたちを たすけたいの。どうしたらいい？」

みきも ひっしです。

せいりゅう 清流さん : 「ありがとう、みきちゃん。ふたりに できることがあるわ。

もり 森がふえると みず 水のおともだちがふえるの。

だから木を き たくさん うえて、森を もり もっと ふやしてほしいの。

それから かわ 川や うみ 海によごれた みず 水を せいりゅう ながさないでね」

だいち : 「そっか！もしかすると、清流さんの のぞみは、

あの シーオーツを へらすことにも ならないかな！」

せいりゅう 清流さん : 「そのとおりよ。森が もり ふえれば、シーオーツを す たくさん吸ってくれるわ。

ゴミを たいせつ すてないこと、でんきをつかわないときはけすことも

大切なことね」

せいりゅう 清流さん : 「ふたりとも ちから 力を せいりゅう かけて まも ちょうだいね。さようなら」

だいち : 「ありがとう！清流さん。ぼくたちが まも 守ってあげる からね！」

みき : 「やくそく まも 守るからね！」

みきも だいちも まも かたく けっしんしました。





みき : 「もりじいには、たくさんのおともだちがいるのね。

でもみんな<sup>かな</sup>悲しいかおをしていたわ」

もりじい : 「そうだね。わたしたちのなかまが<sup>げんき</sup>元気になるには、きみたちの  
たすけがひつようだ」

だいち : 「うん。ぼくたち、もりじいやしぜんのなかまのために、できることは  
ぜったいやるよ」

ふたり : 「またくるね、もりじい！<sup>げんき</sup>元気をだしてね！」

...

ふたりは、おうちにかえると、<sup>もり そら</sup>森や空やじめんのしたで

<sup>み</sup>見たこと、きいたことを、おとうさんとおかあさんにぜんぶはなしました。

そして、<sup>いま</sup>今でも、もりじいとやくそくした、

<sup>もり たいせつ</sup>森を大切にすること、ゴミをすてないこと、そして、でんきを

つけっぱなしにしないことをかぞくみんなで<sup>まも</sup>守りつづけています。

※物語の中で「家電を使用するときにCO<sub>2</sub>が生まれてくる」という表現をしていますが、これは子どもたちに  
分かりやすくするためのものです。実際には、CO<sub>2</sub>は発電時の燃料燃焼などエネルギーの使用に伴って発生します。